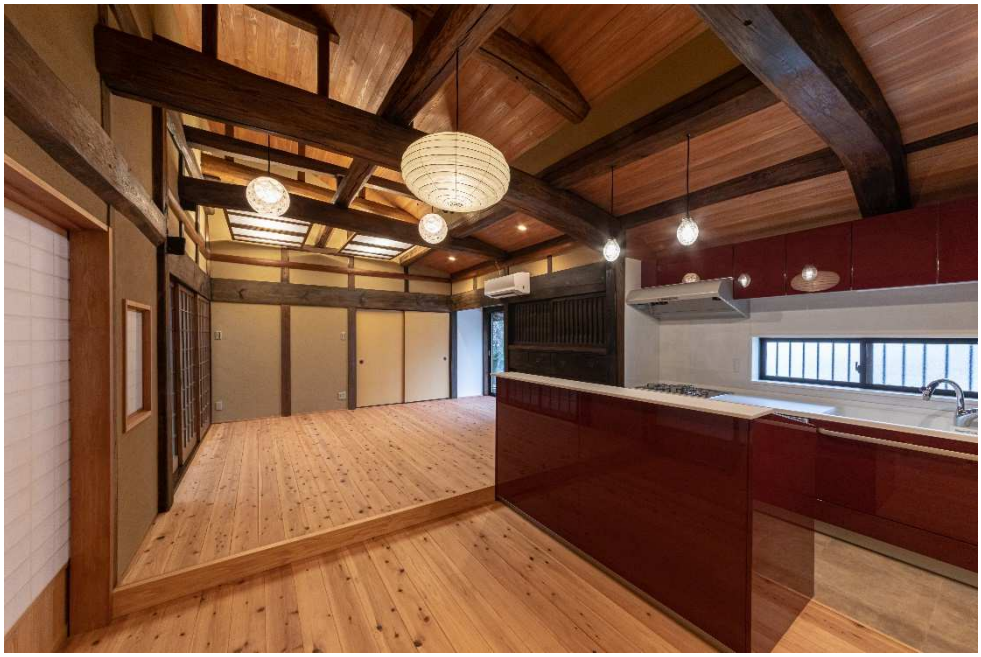
ひろしま住まいづくりコンクール 2023 リフォーム・リノベーション部門優秀賞

古き良き趣を残した築 123 年の古民家再生 [広島市]

[建築主]	非公表		
[設計者]	宮地　明子	[株式会社ホクエイ]	TEL：082-962-5380
[施工者]	前原　拓斗	同上	同上
[企画立案者]	土本　昭弘	同上	同上



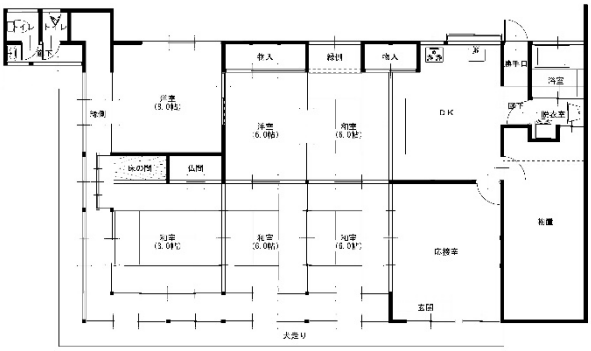
天井や床、窓の断熱性能を上げ、天井に隠れていた立派な梁を見せて開放感をプラスさせても暖かな室内に仕上げた。

←リビングの天井には大工のアイデアから生まれた、障子扉にワーロン紙とLED ライトで造作した照明を配置。

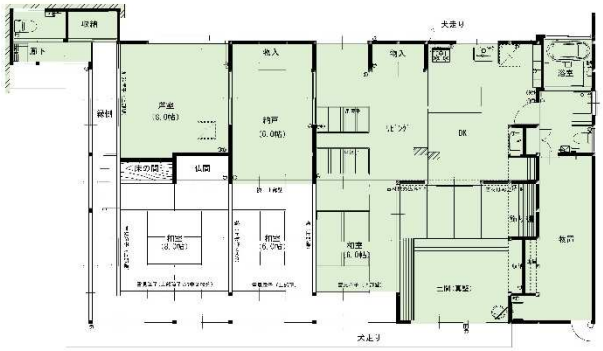
元のキッチンと奥の部屋→は段差が大きく、部屋の行き来のために踏み台(写真左下)が置かれていることが分かる。

◆創意工夫点（土本昭弘さん）

奥様が庭の畑仕事の休憩が快適に行えるよう、広い土間を設け、靴を脱いですぐ一息つける畳敷きのスペースを配置した。土間・リビングの天井は隠れていた立派な梁を見せ、開放感をプラスさせた。また、茶室を専門とする大工と高い技術を持つ左官を筆頭に、今ある素材を大切に残し、そこに昔ながらの技術を駆使しながらリニューアルさせた。



工事前図面

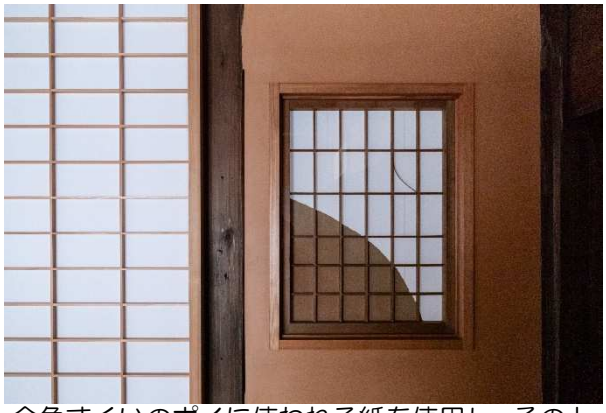


工事後図面

畑仕事をされる施主様が、作業や休憩を快適に行えるよう、靴を脱いですぐ一息つける畳スペースを配置。

手持ちの手水鉢を再利用し、お客様をおもてなし。
壁は大津仕舞という特殊な技術で仕上げた。

昔ながらの工法でつくり上げた三和土の土間は、大工お手製の木槌で時間をかけて丁寧に仕上げた。 →



金魚すくいのポイに使われる紙を使用し、その上に壁と同じ土を月をイメージして塗った小窓を造作した。

玄関、土間の工事前の状態。 ↑
工事によって大きく表情を変えたことが分かる。

作品概要	
構造	木造平屋建て
工事の竣工	令和２年 11 月
築年数	123 年
世帯構成	夫婦２人世帯

◆建築主と設計・施工者の主なやり取り

［建築主さん］：ふわふわと浮いた感じのある床を改善したいです。

土本さん　：築 123 年も経過しているので、まずは床下や構造を細かくチェックしましょう。虫食いや水回りの痛みが進んでいた場合、まずは基盤を整えてから工事に取掛ります。

［建築主さん］：この家が持つ古き良き雰囲気を残してもらえるでしょうか？

土本さん　：今ある素材のうち、しっかりとしているものは残し、古材と新しいものを調和させた設計・施工を行います。例えば古民家ならではの立派な梁はしっかりしているので元の天井張を取り払い、空間を広く見せることもできます。

［建築主さん］：家のあちこちに高い段差があり、移動が大変で転ぶ危険もあるので何とかしたいです。

土本さん　：家全体を段差ゼロにすることは現実的ではありません。移動の多い水回りは完全なバリアフリー化します。それ以外の場所も極力段差を抑え、生活しやすいように改修します。

［建築主さん］：畑仕事の合間の休憩をゆったり過ごせる空間が欲しいです。

土本さん　：玄関を入ってすぐに昔ながらの広い土間を設け、靴を脱いで一息つける畳スペースを配置しました。

［建築主さん］：古材を再利用できますか？

土本さん　：洗面台の背面のタイル・玄関の飾り棚・土間の手水鉢・玄関とダイニングの間の欄間など、室内の各所に古材を再利用して施工します。

［建築主さん］：すき間風が入ってきて寒いので何とかしたいです。

土本さん　：リビングの天井・床に断熱材を施工し、サッシも交換することで、以前よりも暖かな LDK になります。

選評　審査委員　藪根　拓

今ではアパート等も建ち並ぶ町中で、住み継がれてきた築百年をこえる古民家を職人の高い技術で改修した事例である。

伝統的な方法で、玄関の土間は木槌で丁寧に締固め、土壁は幾度も塗り重ねられている。天井板は取外して梁を見せ、古材はなるべく残した。一方、断熱や補強には見えない部分で工夫がなされ、快適さを向上させた。

施主の生活動線に合わせつつも、建物本来の魅力を最大限に活かし、見事に仕上げて新たな価値を生んでいる。